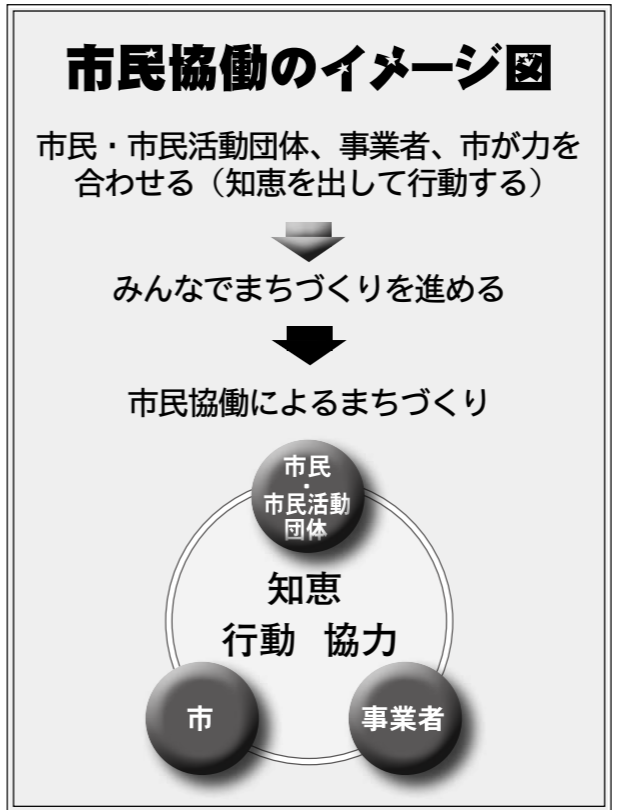


特集

みんなが進める千歳のまちづくり条例が10年目を迎えます



市民協働による「まちづくりの推進」を目的として、平成19年4月に実施された「みんなが進める千歳のまちづくり条例」は、間もなく10年目を迎えます。今月の特集は、「市民協働によるまちづくり」が取り組んできた、これまでの歩みを振り返ります。



まちづくり条例（前文の一部）
（省略）
住みよさを実感し、誇りを持てるまちを実現するためには、これまで行政が担ってきた公共の分野に市全体で取り組むことが求められ、市民が自主的なまちづくり活動を行うとともに、これまで以上に市民のニーズを反映しながら行政活動が行われることが重要となっています。

かつて、私たちのまちでは、村民総出で無償の汗を流して、抜根と整地を行い、広大な火山灰地に着陸場をつくりました。自分の持っている知識や能力を生かし、社会貢献したいという市民の意識の高まりがみられる今こそ、「事に当たって一致団結する」先人たちの精神を呼び覚まし、みんなを力合わせ、知恵を出し、汗を流すことが求められています。それは、本来のまちづくりの姿であり、千歳が目指す「みんなが進めるまちづくり（市民協働によるまちづくり）」です。そして、市民協働を推進するためには、理念や役割分担を明確にするとともに、課題・情報の共有、人材育成、市民が行政活動に積極的に参加できる仕組みづくりなど様々な環境の整備が必要となります。

そこで、市民協働の推進に必要な事項を誰もがわかりやすい約束事として定めるため、この条例を制定します。



大正15年村民がつくった着陸場に着陸した「北海」第1号機と酒井飛行士

市民協働とは？
市民の皆さんや市など「千歳に関わるみんな」で、千歳を住み良いまちにするため協力することを「市民協働」と言います。
みんながまちづくりを進めることが、「市民協働によるまちづくり」です。

1 市民協働の推進に深く関わっている「市民協働推進会議」

(1) 市民協働推進会議
協働事業の進め方や実施事業の選定など、市民協働の推進に必要な事項を調査審議し、実践する機関として、「千歳市市民協働推進会議」を設置しています。
会議の委員は、公募のほか、市民活動団体や事業者から推せんがあった市内に居住する、または通勤・通学する18歳以上の方、15人で構成しています。
これまで、延べ75人（再任者含む）が委員を経験しています。



市民協働推進会議の様子

今井さんは、市民活動団体「FPSペース千歳」の事務局長として、市民協働事業を展開しながら、事業のサポートやコーディネートを行っている。「市民協働推進会議の委員の募集は、FPSペースの講座を開催しているとき、チラシを見て知りました。ここでは、どのような方が委員になっていて、どのようなことが話し合われているのか、少し興味があって応募しました」ときつかけを話す。

推進会議では、協働事業の実施団体や実施事業の審査を行っている。「参加をためらっている方が第一歩を踏み出すことができるような事業が目が行きますね」と、委員の一面を見せる。事業を実施する側と審査する側という、二つの立場が重なっている今井さん、「会議に参加してみると、他の委員から、いろいろな意見が聴けるため、視野が広がって楽しいです」と顔をほころばせる。



今井 美樹さん
平成25年4月から市民協働推進会議の委員を務めている。

- (2) 市民協働推進会議が行う事務
- ① 協働事業の進め方、ひと・まちづくり助成事業の審査や実績の評価
 - ② 実施事業の選定
 - ③ みんなが進める千歳のまちづくり条例見直しの検討
 - ④ さまざまな仕組みに係る意見交換

- (3) 会議の開催回数
- 第1期（平成19～20年度）17回開催
 - 第2期（平成21～22年度）27回開催
 - 第3期（平成23～24年度）27回開催
 - 第4期（平成25～26年度）25回開催
 - 第5期（平成27～28年度）8回開催（1月末まで）

年度	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008	2007
27	マンガ版市民協働ガイドの製作	市民活動団体交流会の開催	第5期 市民協働推進会議の設置	まちづくり条例の見直し検討・答申	市民活動団体交流会の開催	第4期 市民協働推進会議の設置	事業者と市民活動団体をつなぐ「縁結び」事業制度の創設	市提案型協働事業募集の仕組み見直し	市民協働推進会議の開催
26									
25									
24									
23									
22									
21									
20									
19									

2 「みんなで、ひと・まちづくり基金」は、このような取り組みに生かされている

皆さんの寄付で成り立っている「みんなで、ひと・まちづくり基金」を財源として、市民活動団体が実施する市民提案型協働事業や市提案型協働事業、ひと・まちづくり助成事業の運営に活用されています。

市民提案型協働事業は、平成19年4月から募集を開始しています。

第1号は、「東千歳保育所父母と先生の会」から提案のあった「東千歳保育所での冬期間保育事業」です。この事業の実施により、東千歳保育所の通年保育が可能になりました。

この他の市民提案型協働事業、市提案型協働事業、ひと・まちづくり助成事業については、次のとおりです。



マンガ版
市民協働ガイドのイメージキャラクター
(2月末発刊予定)

■ひと・まちづくり助成事業 (23 事業)

- あそびの日 in ちとせ
- 千歳女声合唱団 35 周年記念コンサート
- 2008 ふゆトピア・フェア in 千歳 with 光と氷のオブジェ
- 炎の第九演奏会 2008 in 千歳
- 6・28 水は命 虹の Hoshi プロジェクト in 千歳
- さかなクンのぎょぎょとびっくりにおさかなの話
- 美しい地球を子どもたちに ~みんなつながっている~
- 横峯吉文氏講演会「こどもはみんな天才だ~子供をやる気にさせる4つのスイッチ」
- 中村信仁氏講演会 ~かっこいい大人のなり方、作り方~
- junco & cheep 千歳市公演
- 小泉武夫氏講演会~食卓から始まるひとづくり~
- 障がい児者移動支援ボランティア育成事業
- 劇団四季ファミリーミュージカル「王様の耳はロバの耳」
- CHITOSE MARUWAKARI FESTIVAL 2012
- 千歳市民討議会
- 「ガレキとラジオ」上映会
- 縁結びモデル事業
子育てママを応援する託児付手作りパン教室
- 千歳ジュニアオーケストラ創立記念演奏会開催事業
- ふるさとの木によるふるさとの森づくり 2014
- 地球のステージ~ステージ1と震災編~公演開催事業
- 刑事事件に関わる障がい者支援の講演会
- 「パーソナルソング」上映会
- ワンコインワークショップ実施事業

市民提案型協働事業 (17 事業)

- 東千歳保育所での冬期間保育事業
- 市内石碑・石像などの調査事業
- 体験型市民協働人材育成講座「届けよう知恵と技」
- 市民協働リーダー養成講座 基礎コース
- スナッグゴルフ普及振興事業
- ちとせ・まち魅力検定
- 市民協働リーダー養成講座 応用・実践コース
- てんだいさんとよしえもののわくわくランド
- 駒里保育所での冬期間保育事業
- ご当地グルメ開発・推進事業 (ちとせ丼グランプリ)
- 青少年のための科学の祭典千歳大会
- 市内石碑・石像の追加調査と碑文集刊行事業
- 千歳産まるかじりウォーキング
- 支笏湖保育所での冬期間保育事業
- 地域包括ケアシステム構築のための普及啓発事業
- JR 千歳駅周辺サイン改善事業
- サイエンス・カフェ in ちとせ

■市提案型協働事業 (24 事業)

- まじめぐりガイド
- 市民のIT技能習得のサポート
- つどいの広場の運営
- 千歳市民活動交流センター「ミナクール」の運営
- 本に親しみ、千歳のまちを知る「出前読み聞かせ」
- 特産品コンクール
- 小学校における英語学習
- 「広報ちとせ」表紙写真撮影事業
- 「男性の料理教室」事業
- みんなで作ろう「丈夫なマッチ棒の家」
- ジュニア景観士講座「子どもまちなみ探検隊」
- こども環境教室事業
- 名水と遊ぼう~キッズサマーフェスタ
- 自主防災支援事業
「みんなでつくる災害に強いまちづくり」
- 都市農村交流促進事業「見て、知って、感じて、食す。安全安心の千産千消」
- 市内空地の雑草繁茂状態解消事業
- もっと「市民協 Do!」事業
- 戦没者追悼式事業
- 電気用品等立入検査事業
- 地域安全活動推進事業
- 生涯学習フォーラム
「ちとせ、ひと・まち・学びトピア 2015・2016」
- 英会話教室開催事業
- 図書ボランティア講座開催事業
- 道の駅実態調査事業

3 さまざまな仕組みが作られた

市は、市民の皆さんがまちづくりに参加する機会の拡充や市民活動の活性化を目指して、メールマガジンの発行や市民公益活動団体登録制度、定額自動寄付制度の創設など、さまざま仕組みを構築しました。それぞれの仕組みは、次のとおりです。

☆市民公益活動団体登録制度

社会貢献的な活動に参加しようとする市民への情報提供、市民活動団体の組織強化、団体間の連携を促進するため登録制度の導入

→登録された市民活動団体が市内で行っている社会貢献活動の情報は、市のホームページで公開しています

☆市民協働情報メールマガジン

まちづくりに参加する機会を求めている方などが必要とする情報をメールでタイムリーにお知らせする仕組みの導入

→幅広い年齢層に対する情報提供につなげています

☆事業者と市民活動団体をつなぐ“縁結び”事業制度

まちづくりを担う市民活動団体と事業者の連携・協力による社会貢献活動を促進するため、市が双方を仲介する仕組みの創設

→事業者と市民活動団体それぞれが持つ知識・経験・能力が交わり、相乗効果をもたらす新たな社会貢献活動が進められています

メールマガジンは、スマートフォンなどで下の二次元コードを読み取って登録してください。



4 そしてこれから...

少子高齢化が進み、成熟社会を迎える中において、多様化する市民ニーズに対応するには、「自分たちのまちのことは自分たちで決める」という市民主体のまちづくり(市民協働によるまちづくり)が一層重要になっています。

これからの市民協働に必要なことは、幅広い年齢層の中に「まちづくりの担い手」を育成し、世代を超えた交流活動を推進していくことです。

今後も「千歳に住むみんな」が力を合わせて、市民協働による郷土愛を育てながら「千歳に住んで良かった」と実感できるように、市民協働のまちづくりを進めていきましょう。



市民協働

☆定額自動寄付制度「きふ・とも」

福祉・教育・環境などの分野で社会に貢献している市民活動団体と市民をつなぐため、北洋銀行千歳中央支店と千歳市が協働して行う寄付制度の創設

→きふ・とも登録団体に市民の善意が寄せられています



縁結び事業
イメージキャラクター
むすびん

この記事のお問い合わせ
市民協働推進課
市民協働推進係
☎(24)0452